

大腸内視鏡（大腸カメラ）検査説明・同意書

1. 検査の方法

大腸内視鏡検査（大腸カメラ）は大腸にできる病気（ポリープ・がん・炎症など）を発見し、適切な治療方法を選択するために行います。点滴を行いながら、内視鏡をお尻から挿入し、大腸の中に空気を入れて膨らませながら観察します。

検査は約 10 分程度で終了しますが、病変が見つかったり、ポリープを切除する際にはもう少し時間がかかる場合もあります。（15・20 分程度）

大腸の動きを抑えるための鎮痙薬とご希望の方には鎮静剤（静脈麻酔）を使用して、苦痛のない状態で検査を受けて頂けます。ただし持病によってはこれらの薬を使用できない場合があります。また、脳梗塞や心臓病などのため血液をサラサラにする薬（ワーファリン・イグザレルト・バイアスピリン・プラビックスなど）を服用している場合は、ポリープを切除できないこともありますので、事前に医師と相談した上で検査を行います。

観察中、病変が見つかった場合、必要に応じて以下の処置を行うことがあります。

- 1) 組織の一部を採取し、細胞の検査を行います。（生検）
- 2) 人体に安全な色素を撒布して病変を明瞭にして診断の参考とします。（色素撒布）
- 3) 日帰りで取れるポリープの場合は、ご希望があればその場で切除します。
- 4) 出血などが見られた場合は、止血操作を行います。（内視鏡止血）

2. 検査の危険性

検査は細心の注意を払い慎重に行いますが、内視鏡による危険性として次の様なことが報告されています。

- 1) 出血：0.007%未満（約 14,000 人に 1 人未満）
- 2) 穿孔（腸に穴があくこと）：0.02%未満（約 5,000 人に 1 人未満）、
- 3) ショック：0.0009%未満（約 110,000 人に 1 人未満）

このような場合には、止血処理・輸血・外科的手術あるいは蘇生などの緊急処置が必要になることがあります。検査全体での死亡率は 0.0006%未満（約 167,000 人に 1 人未満）と報告されています。偶発症や緊急事態が生じた場合には、責任を持って対応致します。

3. その他

以上の通りですが、わからない点がありましたら質問して下さい。そして十分にご理解頂けたら、以下の同意書にご署名をお願い致します。（本同意は任意意思につき、いつでも取り消すことは可能です。）

私は、大腸内視鏡検査の目的と方法、危険性について上記の事項を読み、また担当医師からの説明を了承しましたので検査・治療の実施および実施中に必要な緊急の処置に同意します。

令和 年 月 日

患者氏名 _____

鎮静剤（静脈麻酔）のご案内

鎮静剤とは、精神的・身体的な苦痛・緊張を和らげるお薬です。検査室に入ってから、点滴を行いながらお薬を注射します。

不安が強い方・検査が怖い方は「ほぼ眠ったような状態」、検査画面を見たい方は「苦痛を抑えて、画面を見ながらの状態」、など患者さんの希望に応じてお薬の量や種類を調整します。

副作用

極稀に、一過性の呼吸抑制が起きたり、お薬によるアレルギー反応や頭痛・吐き気が起こったりすることがあります。検査中はそのようなことが起こった場合でもすぐに対応できるように、体にモニターをつけ常に全身状態を確認しながら行っています。

注意事項

検査終了後は30-60分程度リカバリールームにてお休み頂きます。

当日は、自動車・バイク・自転車の運転は避けて頂いております。

ご高齢の方はなるべく付き添いの方と一緒に来院ください。

鎮静剤をご希望になられる方は、上記内容を理解された上で、下記をご記入ください。

- 鎮静剤の使用を 希望する → 沈静ご希望の方はA・Bいずれかに○をしてください
- A. ほぼ眠った状態 B. 画面が見れる程度
- 希望しない
- 医師にお任せ

令和 年 月 日

患者氏名 _____

ポリープ切除に関して

大腸がんはポリープが大きくなりがん化するケースが大多数を占めます。ですので、発がんのリスクのあるポリープを早めに切除することが大腸がんの予防につながります。

実際に検査中にポリープが見つかった場合は、患者さんのご希望があれば、その場でポリープを切除することも出来ます。

(ただし、ポリープのサイズが大きい場合や、血液をサラサラにするお薬を複数の種類飲まれている場合や、単剤でも心房細動に対してワーファリン・イグザレルト・エリキュースなどの薬を飲んでいる場合はその場ではポリープが切除できないことがあります。)

ポリープ切除当日はできるだけ安静にして頂きますが、重たいものを持ったり重労働でなければ翌日からお仕事は可能です。

また、当院ではポリープ切除後出血・穿孔（腸に穴が開くこと）などの合併症のリスクが低い **cold polypectomy**（コールドポリペクトミー）という最新の手技を中心に安全なポリープ切除を行っておりますが、それでも極々稀にポリープ切除後に出血を来すことがあります。

通常は1週間以内に起こることがほとんどなので、出血のリスクを減らすため1週間は以下の行為を控えて頂いております。

運動：運動すると血流がよくなり、また腹圧をかけると出血しやすくなります。

飲酒：血流が良くなるため、出血のリスクが上がります。

旅行：遠方にいた場合、万が一出血した際に迅速に対応できなくなってしまうます。

もちろん、実際に出血などの合併症が生じた場合には、迅速に対応できるようにしております。

また、ポリープのサイズや状態によっては、切除はせずに後日高次医療機関にご紹介することもあります。

ポリープ切除をご希望になられる方は、上記内容を理解された上で、下記をご記入ください。

当日ポリープ切除を 希望する
 希望しない

令和 年 月 日

患者氏名 _____